

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月6日

【四半期会計期間】 第77期第3四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）

【会社名】 大同信号株式会社

【英訳名】 Daido Signal Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐藤 盛三

【本店の所在の場所】 東京都港区新橋六丁目17番19号（新御成門ビル）

【電話番号】 03 - 3438 - 4111（大代表）

【事務連絡者氏名】 執行役員財務統括部長 山田 喜嗣

【最寄りの連絡場所】 東京都港区新橋六丁目17番19号（新御成門ビル）

【電話番号】 03 - 3438 - 4111（大代表）

【事務連絡者氏名】 執行役員財務統括部長 山田 喜嗣

【縦覧に供する場所】 大同信号株式会社 大阪支店  
  
(大阪市淀川区三国本町二丁目1番3号  
(NDK大阪ビル))  
  
株式会社東京証券取引所  
  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第76期 第3四半期 連結累計期間	第77期 第3四半期 連結累計期間	第76期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (千円)	15,901,107	13,558,300	22,171,541
経常利益 (千円)	1,295,784	785,559	1,460,155
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	814,164	488,113	716,433
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	170,847	400,349	7,388
純資産額 (千円)	27,136,176	27,161,726	26,957,940
総資産額 (千円)	41,847,988	41,622,000	42,442,403
1株当たり四半期(当期)純 利益 (円)	45.76	27.44	40.27
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	54.4	54.8	53.2

回次	第76期 第3四半期 連結会計期間	第77期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年10月1日 至 2021年12月31日	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	19.69	13.41

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 財務状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における、わが国経済は、経済活動の正常化が進み、新型コロナウイルス感染症に関するワクチン接種の進展や行動制限の緩和を受けて、サービス業を中心に緩やかな回復が継続しました。

しかしながら、世界経済においては、経済活動が正常化する中で歴史的な高インフレが発生し、欧米等多くの国・地域では厳しい金融引き締めが実施されました。また、ウクライナ情勢の緊迫化により、資源価格の高騰が継続し、日米金利差拡大を背景とする円安進行とも相まって、原材料・運送コスト上昇等による物価高が景気下押し要因となっています。

さらに、グローバルサプライチェーンに混乱をもたらした中国の都市封鎖は解除されたものの、ウクライナ情勢の長期化等、引き続き先行き不透明な状況が継続しています。

当社グループの主要なお客さまである鉄道事業者においては、新型コロナウイルス感染症拡大第8波の影響が懸念されるものの、行動制限の緩和や、感染症対策の進展に加え、全国旅行支援等の観光支援策の影響もあって、鉄道需要の回復傾向が続いております。しかしながら、半導体不足等の電子部品の入手困難な状況は継続しており、設備投資計画の見直しや発注時期の延期等、当社受注に関する影響は続いております。

このような中、当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大抑制に留意し、テレワーク等の実施により従業員の感染リスクを低減しつつ、事業活動の維持に努めてまいりました。また、国内市場の維持・拡大、時代のニーズにマッチした受注の獲得と拡大及び経費節減にも取り組んでまいりました。

引き続き、世界的な電子部品入手困難や円安進行に伴うコスト増等、不透明かつ厳しい環境下にあります。きめ細やかな受注予測に基づく部材の先行手配や、徹底した納期管理を通じた戦略的な製品展開等に継続的に取り組むとともに、設計変更等の対応も合わせて実施してまいります。

その結果として、当第3四半期連結累計期間における売上高は135億58百万円（前年同期比14.7%減）となりました。営業利益は6億95百万円（前年同期比42.3%減）、経常利益は7億85百万円（前年同期比39.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億88百万円（前年同期比40.0%減）となりました。

セグメントごとの経営成績の状況は、次のとおりであります。

#### [ 鉄道信号関連事業 ]

鉄道信号関連事業については、電子連動等のシステム製品が増加したものの、運行管理システムやATC（自動列車制御装置）等のシステム製品や、電子踏切、踏切装置等のフィールド製品が減少し、売上高は125億75百万円（前年同期比14.6%減）、セグメント利益は15億54百万円（前年同期比24.5%減）となりました。

#### [ 産業用機器関連事業 ]

産業用機器関連事業については、需要の低迷及び部材入手困難の影響もあり、鉄道車両用自動すきま調整器や非接触耐熱IDシステム等主要製品において減少し、売上高は6億82百万円（前年同期比21.9%減）、セグメント利益は9百万円（前年同期比44.2%減）となりました。

#### [ 不動産関連事業 ]

不動産関連事業については、売上高は3億円（前年同期比2.0%減）、セグメント利益は1億37百万円（前年同期比2.6%減）となりました。

財政状態につきましては次のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ8億20百万円減少し、416億22百万円となりました。これは、棚卸資産が14億1百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が7億2百万円それぞれ増加しましたが、現金及び預金が29億87百万円減少したこと等によるものです。

当第3四半期連結累計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ10億24百万円減少し、144億60百万円となりました。これは、賞与引当金が5億2百万円、未払法人税等が2億93百万円、支払手形及び買掛金が2億93百万円それぞれ減少したこと等によるものです。

当第3四半期連結累計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ2億3百万円増加し、271億61百万円となりました。これは、利益剰余金が3億10百万円増加したこと等によるものです。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は5億89百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	30,000,000
合計	30,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年2月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	18,018,000	18,018,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
合計	18,018,000	18,018,000	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年12月31日	-	18,018,000	-	1,500,039	-	1,233,716

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である2022年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 226,900	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,778,700	177,787	同上
単元未満株式	普通株式 12,400	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	18,018,000	-	-
総株主の議決権	-	177,787	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式67株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 大同信号株式会社	東京都港区新橋六丁目 17番19号	226,900	-	226,900	1.3
合計		226,900	-	226,900	1.3

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東邦監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,002,809	4,014,926
受取手形、売掛金及び契約資産	10,046,664	10,749,404
商品及び製品	2,918,942	3,014,974
仕掛品	4,045,735	4,985,745
原材料及び貯蔵品	2,406,798	2,772,143
その他	37,959	373,317
流動資産合計	26,458,911	25,910,512
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,484,645	6,484,645
その他(純額)	3,579,591	3,451,258
有形固定資産合計	10,064,237	9,935,903
無形固定資産	105,388	87,163
投資その他の資産		
投資有価証券	5,496,441	5,319,688
その他	324,345	374,581
貸倒引当金	6,920	5,850
投資その他の資産合計	5,813,866	5,688,420
固定資産合計	15,983,492	15,711,487
資産合計	42,442,403	41,622,000
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,842,166	3,549,086
短期借入金	3,629,804	3,576,720
未払法人税等	297,054	3,680
賞与引当金	814,833	312,099
役員賞与引当金	17,391	8,172
製品補修引当金	210,746	166,376
その他	1,059,434	1,381,135
流動負債合計	9,871,430	8,997,270
固定負債		
長期借入金	1,437,210	1,274,420
役員退職慰労引当金	74,636	81,711
製品補修引当金	905,384	796,517
退職給付に係る負債	1,762,222	1,757,194
その他	1,433,578	1,553,158
固定負債合計	5,613,032	5,463,002
負債合計	15,484,462	14,460,273



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,500,039	1,500,039
資本剰余金	1,233,716	1,233,716
利益剰余金	18,066,412	18,376,614
自己株式	66,407	66,459
株主資本合計	20,733,760	21,043,911
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,841,484	1,764,748
退職給付に係る調整累計額	13,897	11,750
その他の包括利益累計額合計	1,855,382	1,776,498
非支配株主持分	4,368,798	4,341,317
純資産合計	26,957,940	27,161,726
負債純資産合計	42,442,403	41,622,000

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	15,901,107	13,558,300
売上原価	11,532,477	9,757,421
売上総利益	4,368,629	3,800,879
販売費及び一般管理費	3,163,445	3,104,891
営業利益	1,205,184	695,988
営業外収益		
受取配当金	116,079	114,812
その他	24,409	19,903
営業外収益合計	140,489	134,715
営業外費用		
支払利息	46,476	44,996
その他	3,413	148
営業外費用合計	49,889	45,144
経常利益	1,295,784	785,559
特別損失		
投資有価証券評価損	5,311	-
固定資産除却損	4,491	439
特別損失合計	9,802	439
税金等調整前四半期純利益	1,285,982	785,119
法人税、住民税及び事業税	26,579	30,858
法人税等調整額	393,609	225,648
法人税等合計	420,188	256,506
四半期純利益	865,793	528,612
非支配株主に帰属する四半期純利益	51,628	40,499
親会社株主に帰属する四半期純利益	814,164	488,113

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	865,793	528,612
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	700,735	126,116
退職給付に係る調整額	5,789	2,147
その他の包括利益合計	694,945	128,263
四半期包括利益	170,847	400,349
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	236,085	409,230
非支配株主に係る四半期包括利益	65,238	8,880

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は生産面等において現時点では大きくありませんが、事態の進展や終息時期等は予測が立て難く、加えて鉄道利用者の動向は流動的で、引き続き不透明な環境が続くものと思われます。それに伴い、鉄道事業者の設備投資計画如何によっては、当社グループの業績、財政状態に悪影響を及ぼす懸念がありますが、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響の仮定に重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
受取手形	- 千円	18,380千円
支払手形	- 千円	210,389千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	367,614千円	325,473千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	177,912	10	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	177,911	10	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	鉄道信号 関連事業	産業用機器 関連事業	不動産 関連事業	計		
売上高						
一時点で 移転される財	8,857,970	873,076	-	9,731,046	-	9,731,046
一定の期間にわたり 移転される財	5,863,729	-	-	5,863,729	-	5,863,729
顧客との契約から 生じる収益	14,721,699	873,076	-	15,594,775	-	15,594,775
その他の収益	-	-	306,332	306,332	-	306,332
外部顧客への売上高	14,721,699	873,076	306,332	15,901,107	-	15,901,107
セグメント間の内部 売上高又は振替高	70,117	282,258	13,482	365,859	365,859	-
計	14,791,817	1,155,334	319,814	16,266,966	365,859	15,901,107
セグメント利益	2,057,648	17,332	140,837	2,215,818	1,010,634	1,205,184

(注) 1 セグメント利益の調整額 1,010,634千円には、セグメント間取引消去 13,272千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 997,361千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	鉄道信号 関連事業	産業用機器 関連事業	不動産 関連事業	計		
売上高						
一時点で 移転される財	8,199,270	682,210	-	8,881,481	-	8,881,481
一定の期間にわたり 移転される財	4,376,573	-	-	4,376,573	-	4,376,573
顧客との契約から 生じる収益	12,575,843	682,210	-	13,258,054	-	13,258,054
その他の収益	-	-	300,245	300,245	-	300,245
外部顧客への売上高	12,575,843	682,210	300,245	13,558,300	-	13,558,300
セグメント間の内部 売上高又は振替高	77,523	317,081	14,602	409,207	409,207	-
計	12,653,367	999,292	314,848	13,967,507	409,207	13,558,300
セグメント利益	1,554,523	9,663	137,133	1,701,320	1,005,332	695,988

(注) 1 セグメント利益の調整額 1,005,332千円には、セグメント間取引消去 63,072千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 942,260千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益	45.76円	27.44円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	814,164	488,113
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	814,164	488,113
普通株式の期中平均株式数(株)	17,791,183	17,791,102

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月3日

大同信号株式会社  
取締役会 御中

東 邦 監 査 法 人

東京都千代田区

指 定 社 員  
業務執行社員 公認会計士 石 井 克 昌

指 定 社 員  
業務執行社員 公認会計士 佐 藤 淳

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大同信号株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大同信号株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。



#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。